作物名
（ 2020 ）年 度 委 託　　（ シバ ）

対象病害虫名 シバツトガ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

担当者氏名 日植防 太郎

1. 試 験 目 的 防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生 （2～3齢幼虫）

耕種概要（品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培（ビニルハウス・雨除け・トンネルなど）の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載）

草種：ベントグラス （ペンクロス） 刈り高：4.8mm 栽培様式：ゴルフ場グリーンの管理に準ずる 土性：砂壌土

施肥その他一般管理はゴルフ場慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤：なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 4㎡（2m×2m） 3 連制

1 - Ⅰ	3 - Ⅱ	2 - Ⅲ
2 - Ⅰ	1 - Ⅱ	3 - Ⅲ
3 - Ⅰ	2 - Ⅱ	1 - Ⅲ

1: Ａフロアブル 2:B乳剤 3:無処理 ⅠⅡⅢは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

（処理年月日） 2020年8月1日

（処理時の作物のステージ） 生育期

（処理方法） 背負い式動力噴霧器を用いて所定量を均一に散布した。

（処理前後の降雨影響） 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8
平均気温(℃)	32.0	30.0	29.0	28.0	27.5	29.0	30.0	28.0
降水量(mm)	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

観測地点：茨城県竜ケ崎アメダスデータ

調査月日・方法（月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載）

（調査月日） 処理前（8 月 1 日）、処理 3 日後（8 月 4 日）処理 7 日後（8月 8 日）

（調査方法） 各区内のシバツトガ幼虫のツト数を調査した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－：薬害を認めない。＋：軽微な薬害症状を認める。＋＋：中程度の薬害症状を認める。

＋＋＋：重度の薬害症状を認める。

その他（特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載）

コメントの追加 [WU1]: 学名の表記方法について
2021 年度より学名の記載は省略可能です。

コメントの追加 [J2]: 土性の表記について
壌土、砂壌土、砂土など。分からない場合は不明と記述。

コメントの追加 [J3]: 試験期間中の防除薬剤（殺菌又は殺虫剤）について
使用月日、薬剤名を記載。試験開始前であっても試験に影響があると考えられるものは記述する。使用していない場合は「なし」と記載する。

コメントの追加 [J4]: 試験区の構成
各区の位置関係がわかるように配置図を記載する。

コメントの追加 [J5]: 気象条件について
・試験開始から最終調査日までの平均気温、降水量を表またはグラフで示す。
・データの引用元を付記する。

コメントの追加 [J6]: 調査月日・調査方法について
薬効と薬害の調査日が異なる場合はそれぞれ記載。
複数処理の場合は最新処理からの日数を記載。
例：第 2 回処理 3 日後、最終処理 7 日後等
調査月日と方法の項目を分けずにまとめても可。
薬害は、いつ、どの部位について観察したかわかるように記述する。グレードは適宜定めてよい。

コメントの追加 [J7]: 薬効調査時と異なる時は調査日を記載

コメントの追加 [J8]: 特記事項、放虫,等
放虫した場合はここに記載。虫の由来（採集時期、場所）や放虫方法（放虫量や場所、薬剤処理との時間的関係）を記載

作物名
（ 2020 ）年 度 委 託　　（ シバ ）

対象病害虫名 シバツトガ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	連制	4㎡あたりツト数 処理前	同3日後	同7日後	薬害
			8/1	8/4	8/8	8/1,4,8
22) Aフロアブル		I	83.0	3	0	－
新規化合物 10%	2000倍	II	37.0	0	0	－
Lot. No. ABC-123	0.5L/㎡	III	49.0	6	0	－
		平均	**56.3**	**3**	**0**	
		防除率(%)		**94.7**	**100**	
対照 B乳剤		I	77.0	7.0	0.0	－
既知化合物 20%	1000倍	II	42.0	4.0	0.0	－
	0.5L/㎡	III	50.0	3.0	0.0	－
		平均	**56.3**	**4.7**	**0.0**	
		防除率(%)		**91.8**	**100**	
無 処 理		I	57.0	62.0	60.0	
	－	II	57.0	46.0	37.0	
		III	44.0	52.0	58.0	
		平均	**52.7**	**53.3**	**51.7**	
		防除率(%)		**100**	**100**	

防除率(%)＝(1－(処理区処理後虫数×無処理区処理前虫数)/(処理区処理前虫数×無処理区処理後虫数))×100

4. 考察

実用性の判定は処理 8 日後の防除率で行った。

22) A フロアブル 2000 倍 0.5L/㎡ 散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

コメントの追加 [J9]: 試験成績について

・結果を表形式で記載。
・連制ごとまたは調査地点ごとに結果を表示し、合計値または平均値を表示する。
・評価するための指数(防除率、補正密度指数、対無処理比、等)も記載する。
・薬害は調査時期がわかるように表記。
・2021 年度より表中の無処理区の薬害記号は記載不要となりました。

紙面のスペースによっては表を末尾に記載しても可。

コメントの追加 [J10]: 考察について

・実用性の判定は基本的に対無処理判定を重視する。対無処理判定と異なる判定とする際は、その理由を明記する。